



# 瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部  
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

年間第21主日 A年(2023年8月27日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：イザヤ書 22章19—23節

第二朗読：ローマの信徒への手紙 11章33—36節

福音朗読：マタイによる福音書 16章13—20節

## あなたは誰？

### 三つの朗読から

第一朗読の「ダビデの家の鍵」(イザ22章22節)、福音朗読の「天の国の鍵」(マタ16章19節)、これが二つの朗読をつなぐ言葉となります。また、「窮め難い」(ロマ11章33節 フランシスコ会訳) 神の知恵が朗読全体のテーマとなります。第一朗読で神は、人間には理解しがたい理由からエルヤキムを王の側近として立てました。福音朗読では、なぜイエスさまが、ペトロのもとに教会を建て、天の国の鍵を授けるとおっしゃったのかは分かりません。ペトロが「生ける神の子」と答えたからではないでしょう。おそらく、もっと別な深い理由があったのです。第二朗読では神の知恵と知識の深さをパウロは賛美します。パウロはすべての人を救おうとなさる神の想い・計画に気がついたのです。人間の考えを超えた、神の想いを味わうのが今日の三つの朗読が求めているものではないでしょうか？

### 説教：あなたは誰？

『マタイによる福音書』14章1節から16章20節にかけて、イエスさまは数々の奇跡を行います。五千人もの人々に食物をお与えになり(14章13—21節)、湖の上を歩かれ(22—23節)、ゲネサレトの人々の病気を癒やし(34—36節)、カナンの女の信仰を認めた上でその人の娘の病気を癒やします(15章21—28節)。そしてもう一度パンを増やします(15章32—39節)。このようにイエスさまは奇跡を行いながら、天の国のメッセージを伝えます。特にファリサイ派と律法学者たちの欺瞞を指摘し(15章1—20節)、彼らがかたくなに守る「昔の人の言い伝え」(2節)を否定します。お弟子さんたちはそんなイエスさまの力あふれる活動をそばで見て、「神の子」(14章33節)と告白しながら、イエスさまがどなたであったかが分かってきたようです。

今日の福音では、イエスさまがお弟子さんたちに「わたしを何者だと言うのか」(16章15節)と直接聞いてきます。

14節で「洗礼者ヨハネ、エリヤ、エレミヤ、預言者の一人」とお弟子さんたちは人々の評判を言います。人々のイエスさまに対する評判はいろいろあったようです。エリヤもエレミヤも世の終わりの時に再登場する預言者でした。洗礼者ヨハネは「悔い改めよ。天の国は近づいた」(3章2節 フランシスコ会訳)と、世の終わりの近いことを説き、回心を呼びかけました。人々はローマの圧政の中で生きていますから、新しい指導者の登場を願っていたのでしょう。それは世の終わりになされる神さまからのこの世に対する決定的な介入でもあると信じていたのです。ですので、人々の立場は終末的な切羽詰まった状態です。

そんな評判を聞いてイエスさまは15節で「あなたがたはわたしを何者だと言うのか?」と問いかけます。お弟子さんたちの中にも、民衆と同じように終末的な救いの期待感の中でイエスを見て、理解している人もいたと思います。イエスさまのこの問いかけは、本当にお弟子さんたちがイエスさまが誰であるかを理解しているかどうかを試される問いかけでもありました。

ペトロの答えは16節の「生ける神の子」です。今日の福音の箇所は『マルコによる福音書』にも『ルカによる福音書』にも共通して見られるものです。しかし、「生ける神の子」という表現は『マタイによる福音書』だけに見られるものです。すでに14章33節で「神の子」という表現は登場していますが、「生ける」という言葉が追加され、なおかつ「子」の前に定冠詞が付与されているのには注目されます。「生ける神の子」は特別な表現だったのでしょう。イエスさまが「神の子」であることを伝えるのが福音書の基本的なテーマです(1章1節参照)。

イエスさまを「神の子」と告白する信仰は、人間ではなく父である神が「現した」(17節)ものです。父なる神が現してくださったものを、人間からの応答としてペトロはすなおに「あなたはメシア、生ける神の子」(16節)と告白します。そのような告白をしたペトロは「幸いだ」(17節)とイエスさまは祝福します。

そして19節の「天の国の鍵」をペトロはいただきます。鍵という言葉が用いられる際に「つなぐ」と「解く」という動詞も一緒に用いられます。「つなぐ、解く」は律法の教師であるラビたちが用いた専門用語だったそうです。ラビたちは律法を読み解いて、人々が実生活をする上での規定や方針を明らかにし、律法を「掟」として押しつけました。人々に重荷を負わせたのです(23章1-5節参照)。ラビに代表される律法学者とファリサイ派は「人々の前で天の国を閉ざす」(23章13節)してしまいました。イエスさまからペトロに託された鍵は、人々が天の国に入れるように天の国を開く鍵となります。